

オーブンカレッジ通信

第3号

令和2年
12月発行

さんだ生涯学習
カレッジ事務局



市HP掲載中!

守り伝えたい! 誇れる三田の自然

見渡せば広がる三田の自然。

里山や田園風景が残り、そんな豊かな自然に心癒されながら、三田での暮らしを楽しんでいる方も多いのではないだろうか。

十一月は「三田の自然と魅力」というタイトルで、兵庫県立人と自然の博物館の石田先生を講師に招き、誇るべき三田市の自然の特徴や現状、課題について学びました。

森林が多い三田

〽 植生の現状

三田市の六十五%は、森林でできています。そのうち、人の影響を受けていない「原生林」はゼロパーセント、伐採等が行われても自然の力で維持していける

「自然林」や「植林」はごくわずか、ほとんどが原生林等を破壊して人為的に作られた「二次林」です。三田には、アカマツ林(針葉樹林)、コナラ林(夏緑樹林)等の二次林が多く見られます。

里山で守られる生物多様性

二次林の中でも、人々の燃料や肥料を得るために利用・管理されていた二次林は「里山林」と呼ばれ、三田にも多く存在しています。里山林を継続的に活用していくことで、多種多様な生物が生息可能になります。しかし、石油・ガス・電気等が普及し、生活の中で木々の伐採等の必要がなくなったことを背景に、里山林が変化してきてい

ます。常緑樹が繁殖して森林の中に光が入らなくなり、生物多様性や四季の景観の消失が懸念されています。

三田が誇る「皿池湿原」

三田には、貴重性が高い「皿池湿原」が残っています。湿原は湧水湿地に成立し、貧栄養な立地に成立する特殊な草原です。県・市の天然記念物に指定され、県・市の「レッドデータブック」にも登録されています。トキソウ、サギソウ(写真)、ムラサキミミカキグサ、ミカヅキグサ、カザグルマ等、可憐な草花が季節ごとに彩りを与えて



います。また、泳げない水生昆虫ヒメタイコウチや世界最小級のトンボであるハッチョウトンボ等、皿池湿原は希少種の宝庫です。

これまで周辺の里山利用によって湿原は守られてきましたが、近年の里山の放置による湿原の環境悪化が課題になっています。草木が生えていなかった場所での樹木の成長やヌマガヤ等の大型の草花の繁茂により、生物多様性が脅かされています。

みんなで守ろう

〽 皿池湿原の守り人

そんな様々な課題が生じてきている皿池湿原を守るために、市民のボランティア組織「皿池湿原の守り人」も発足し、保全活動が進められています。樹木の伐採や散歩道の整備等を市民や企業、地域団体、三田市が連携しながら行っています。

重要な生物多様性を守り、さらにその価値や魅力を高め、将来に引き継いでいくために、様々な取り組みが行われています。

参加者の声

■ 三田の気候、里山、ため池について学び自然環境への関心が深まりました。

■ 三田市の森林がほとんど二次林(里山林)と知り驚きました。

■ 皿池湿原が三田の貴重な宝であり保全が必要だと再認識し、保全活動への参加も考えました。

■ 里山の自然の重要性を再確認し、里山も湿原も次世代に引き継ぐためには人の手が必要だとわかりました。

最後に・・・

三田には、皿池湿原をはじめとする誇れる自然の魅力がたくさんあり、そんな豊かな自然が私たちの心の癒しにもなっているとあります。その一方で、人々の生活の変化等に伴い、様々な課題が生じてきているのも現状です。素敵な三田の自然を守り、次世代へ伝えていくために、私たちも自然との関わり方を今一度考えてみませんか。